

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570800734		
法人名	株式会社 ひまわりあくと		
事業所名	グループホーム たんぽぽ		
所在地	山口県岩国市保津2丁目3番3号		
自己評価作成日	平成24年6月28日	評価結果市町受理日	平成25年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋の建物でぬくもりの感じられる造りとなっており、圧迫感の無い広々とした空間で、安全に生活していただけるよう工夫しています。利用者の皆様が日々を楽しみながら、充実した生活を送れるよう、散歩や畑仕事、ドライブに出かけるなどの外出機会を多く設け、歌や踊りのボランティアにもご訪問頂く等、支援を行なっています。医師、薬剤師による居宅療養管理指導も行なわれ、健康管理や医療・安全面にも努めています。利用者様への支援はもちろんのこと、ご家族様等に連絡を取りあい、ご本人の近況をお伝えしたり、相談するなど関わりを多く持つよう心がけています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりのその人らしい生活を尊重したケアを提供され、利用者は穏やかに生き生きと暮らしておられます。東西のユニットは廊下で繋がった回廊式で、自由に行き来ができ、ユニット間の利用者同士の交流や行き来することで健康維持にも繋がっています。居室には洗面台やベッド、クローゼットが整備され、利用者思いの小物や室内装飾品、机、椅子が持ち込まれ、その人らしい個性のある居室づくりに工夫される他、外庭に出て洗濯物を干したり、取り込んだり、花壇の手入れや菜園の世話など、普通の暮らしが出来るよう生活環境にも配慮され、利用者が安心して過ごしておられる様子が伺えます。家族や医師、看護師との情報の共有にも配慮され、携帯メール等で利用者の状況報告をしておられ、体調の変化や緊急時に備えておられます。薬剤師による居宅療養管理指導が行われ、薬の知識についての相談や助言を受けて、利用者一人ひとりの誤薬や事故防止に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のこれまでの生活を大切にしながら、馴染みのある地域の中で安心して生活を送って頂けるよう、ホーム独自の理念を掲げ職員全員で取り組んでいる	地域密着型サービスの意義をふまえた4項目の事業所独自の理念をつくり、事務所に掲示し、ミーティングで確認し、共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域の行事等にも積極的に参加している。又、散歩の際に近所の方々と挨拶を交わして顔なじみになっている	自治会に加入し、ゴミ出しや回覧板を回したり、職員が溝掃除に参加する他、お宮の祭りや地域の行事に参加している。散歩時に近所の人と挨拶を交わすなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後も地域と共にあるホームとして、少しでも地域の方々に貢献していけるよう努めていきたい			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の指摘、指導された内容については、職員全員で真摯受け止め、出来る事から積極的に改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解しており、今回の自己評価はガイド集を参考にして、職員全員で項目ごとに話し合い、共通理解して取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて、業務の見直しをするなど改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真入りの資料を使い、利用者の日常生活を分かりやすく報告している。また、ご家族様、地域の方々と一緒に勉強会を行なうなどしてホームの意義や、入居者様に対する理解を得てもらえるよう取り組んでいる	年6回開催し、利用者の状況や評価の取り組みなどを報告し、意見交換をしている。地域の理解と支援を得られるように勉強会を行うなどして、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を活用しながら、岩国市とは常に連携し、相談・助言を受けながらサービスの質の向上に努めている	市担当課と日ごろから連絡を密に取り、事業所の状況やサービスの取り組みを伝え、利用者の状況について、意見や助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を通じ、身体拘束にあたる行為については皆で理解に努めている。玄関の施錠に関しては、玄関がホールから死角である為安全上開錠されてないが、希望があればその都度開錠したり、職員が一緒にいる際は開放し、自由な暮らしを支えるよう努めている	身体拘束について、ミーティングや研修会を通して職員は正しく理解しており、拘束や抑制のないケアに取り組んでいる。玄関は建物の構造上職員の目が行き届かない位置にあり、安全上施錠する場合もあるが、希望にそって開錠し、職員と一緒にいる時には開放するなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を通じ勉強会を行なうなどして、身体的虐待だけではなく、精神的虐待等ないように防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されている方もおり、必要に応じて支援を行なっている。ただ、これらの制度のついて全職員に徹底していない為、今後、勉強会などを通じて指導していきたい		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容、利用料金について丁寧に説明し、納得していただいた上で契約を結んでいる		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、電話や訪問時などにしっかりコミュニケーションを取り、普段から信頼関係が築けるよう努めている。又、契約時、重要事項説明書に添い相談受付職員・受付機関などを紹介、説明している	苦情相談窓口や処理手続きを周知し、本人や家族に説明している。電話や訪問時、メール等で状況を報告し、日ごろから意見や要望が言えるよう信頼関係を築いている。意見や要望は運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等通じ意見、提案等を聞く機会を設け、それが反映されるよう努力している。また、普段から職員とのコミュニケーションを図り、お互い信頼関係が築けるよう努めている	毎月のミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、業務改善等の提案や意見を運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じ、職員からの要望などを全体で把握できるよう努めている。また、職員が向上心を持って働けるよう、資格所得に向けた支援をしたり、職員の要望に応じて勤務変更を行なうなど柔軟に対応している		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業社外の研修には出来るだけ受講できるようにしている。内部の研修に関しても、ミーティング等を利用して勉強会を開くなどして、職員間で介護技術の向上の努めている	外部研修は受講の機会を提供し、資格習得の支援もしている。内部研修は、毎月のミーティングで職員が講師となり、勉強会を実施し、介護技術や知識の向上に努めるなど、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修、講習会を通じて、職員間での意見交換を行なうなど、サービスの質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報収集に努め、早い段階から、不安や要望を把握していく過程で、しっかりと思いを受け止め安心してもらうことにより、信頼関係がつかれるよう努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、心配事を軽減できるよう相談、面談時にしっかりと話を聞き、一緒に問題解決に取り組んでいる		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、相談内容によっては、その方に適したサービスを紹介するなど、柔軟に対応している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活空間で一緒に生活する者として、同等の立場で関係を築けるようなケアを心がけ、支えあえるような関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連携をとりあい、本人を支える姿勢で、一緒に考えていける自然な人間関係づくりに努めている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会、手紙のやり取り、思い出の場所に車で出かけるなどの支援に努めている	今まで利用していた時計店や歯医者を受診、一時帰宅、墓参り、ドライブなどで馴染みの場所に出かけたり、知人や友人との手紙のやりとりの支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を促し、孤立したり居室に閉じこもった生活を送ることがないように支援に努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により退居となった方に対しても、その後のフォローをしっかりと行い、継続的な関わりを持ちながら相談等の支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員側の都合ではなく、利用者一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、日々支援を行っている	日常生活の中で、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。入浴介助時や夜間休憩時等に聞いた本人の思いや言葉を大切に生活記録に記録し、職員間で共有している。困難な場合は家族の意向も聞いて、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を家族、周辺の方々から情報収集する事で、その人らしい暮らし方や力の発揮に活かすよう努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活をよく観察し、一日のリズムや心身の状態を把握する事で、個別な支援ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点に立ち、計画作成者の意向だけが活かされたプランとならないよう、本人、家族、職員等からの意見・要望を組み込みながら作成するよう努めている。また、状態が変化した場合は随時作成し直すように努めている	毎月モニタリングを行い、本人や家族、主治医の意見を参考に話し合い、3ヶ月毎に介護計画を作成している。状況に変化が生じた時はその都度、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録により、職員、他職種との情報共有が出来ている。また、介護計画を作成する際にはそれが活かされている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに応える為に、柔軟な職員のローテーションや他職種連携など、多角的な視点で実現するように努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、その他機関との連携を図りながら、豊かな生活を送ることが出来るよう支援している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけではなく、本人・家族の希望を尊重した上でかかりつけ医を決定し、その方の状態にあった適切な医療を受けることが出来るよう支援している	2週間に1回往診があり、薬剤師による居宅療養管理指導も行っている。体調に変化が生じた時は看護師と連絡を取り合い緊急時に備えるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と協力医療機関看護師等に、相談しながら、一人ひとりの健康管理や医療支援に繋げている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密に取りながら、入院となった場合にも医師や家族と、日々連絡をとりあい情報収集に努めている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り介護に関する指針」を作成し、重度化・終末期に向けた方針について事前に本人・家族に説明を行なっている。また、必要となった際には、かかりつけ医と連携しながら進めていけるような体制づくりに努めている	「看取り介護に関する指針」「重度化指針」を作成し、本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、かかりつけ医と連携しながら支援に取り組んでいけるよう体制づくりに努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者一人ひとりの状態を把握し、事故につながらないよう努めている。万が一に備え、救急蘇生法等の講習会にも参加し、ミーティング時勉強会にて知識の習得に努めている	ヒヤリはっと報告書、事故報告書を作成し、検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。救急救命蘇生法の講習会の受講や、緊急時対応マニュアルに基づいた応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新たに作成した災害時のマニュアルをもとに、災害時に利用者が安全に避難出来るような体制づくりに努めている。また、今まで以上に地域との協力体制を強化する為に、運営推進会議等を通じて自治会長、民生委員の方と災害時の対応策について協議を行なっている	災害時マニュアルを作成し、避難訓練は地域の人も参加して、実施している。運営推進会議等で災害時の対応策について協議し、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を傷つけるような言動がないよう職員にも指導を徹底している。また、居室への出入り、トイレ等の確認においても細心の配慮を行い、プライバシーを侵害する事のないよう勤めている	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について職員は正しく理解している。人権やプライバシーに配慮した対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思・希望を大切に、自己決定の場面づくりに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、レクリエーション、食事、入浴等、一日の大まかなスケジュールは決まっているが、決して無理強いせず、本人の生活リズムやペースに合わせた個別支援を行なえるようにしている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の個性や好みを尊重し、家族と連携を取りながら買い物に出かける等の機会を設けている。個々のペースにそって見守りながら一緒に生活を送るよう努めている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の体調に合わせ、食事の準備から片付けまで、出来る範囲で取り組んで頂いている	法人の栄養士の献立により、三食ともユニットごとに食事づくりをしている。利用者は食事の下ごしらえや後片付けなど、できることを職員と一緒にやっている。おやつや岩国寿司、巻き寿司を一緒に作り、職員は利用者と同じ食事をとりながら、食事を楽しむことのできるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、献立は栄養士によりカロリーが計算されたものが提供されている。食事内容も、個々の状態や能力に応じてアレンジするなど工夫している。水分補給や食事の摂取量は毎日記録し、職員全員が情報を共有している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、昼食後、就寝前に義歯の洗浄を促し、困難な方に関しては介助しながら対応している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄を記録しながら個々の排泄パターンを把握し、必要に応じた声掛け誘導を行なっている。利用者様が常に清潔に気持ちよく生活を送っていただけるよう努めている	排泄記録表から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや見守りにより、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちだからといって、すぐに下剤を服用するのではなく、食物繊維、水分摂取をしつかり行い、体操やレクリエーション・散歩などで自然排便に繋がるよう促している		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間の入浴は職員の人数的に難しいが、日中の時間帯であれば毎日入浴可能で、利用者個人の希望を大事にしながらゆっくりと一人ひとりが入浴していただけるよう努めている	日中の時間帯に毎日入浴が可能で、利用者一人ひとりの希望を大事にして、ゆっくり入浴を楽しむことができるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間の固定観念にとらわれず、個人の生活リズムに合わせながら、ゆっくりと休息できるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬内容、作用が分かる一覧表を作成し、情報の共有に努めると共に、医師・薬剤師・看護師等との連携を常にはかり、適切な服薬支援が行なえるよう体制を整備している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族等からの情報収集により、一人ひとりの生活歴を把握し、ホームでの生活を張りのあるものとできるよう努めている	食事の下ごしらえ、盆拭き、掃除、畑の世話、ぬり絵、はり絵、縫い物、計算ドリル、レクリエーション、歌や踊りのボランティアとの交流など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	庭での日向ぼっこ・畑仕事や、一緒に近所を散歩したり、ドライブに出かけたりと、日常的に外出するような支援を行なっている。また、家族の協力を得ながら、本人の希望する場所に外出するなどの機会がもてるよう支援している	庭に出て洗濯物を干したり、取り込んだり、花壇の手入れ、菜園の世話、散歩など日常的に戸外に出かけている。季節の花見やドライブ、イモ掘り、栗拾いなど家族やボランティア、地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理出来ない方が大半であるが、本人から要望がある際には家族等と相談しながら、出来る限り本人の希望に添うことができるよう支援している		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があればいつでも電話を使用でき、手紙を作成するときは必要に応じて職員が代筆するなどして、本人の要望が叶えられるよう努めている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花や利用者様が作成した壁面を飾るなどして、四季を感じて頂けるよう努めている。ホーム全体には冷暖房、換気扇を設置し、温度調節、換気には気を配り、快適に生活していただけるよう配慮している。	リビングは高い吹き抜けになっており、差し込む自然の光が明るく、利用者と職員で作成した季節のちぎり絵や季節の花が活けてあり、居心地の良い共用空間となっている。昼の間でくつろいだり、ソファに座ってテレビを見たり、玄関ホールベンチで利用者同士の団欒を楽しんでいる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファ等配置し、玄関ホールにもベンチがあり入居者同士が団欒できるよう工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち物の制限は無く、利用者本人の思い出の品等を飾るなどして、住み慣れた環境の中で生活を送ることが出来るよう配慮している	テレビや冷蔵庫、扇風機、布団、身の回りの小物など使い慣れたものを持ち込んで、その人らしい個性のある居室づくりをして、安心して過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全な環境の中で生活を送ることが出来るよう、屋内各所に手すりなどを設置している。また、居室、風呂場、トイレの入り口等には親しみのある絵札をかけて混乱や失敗を防げるよう配慮している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム たんぽぽ

作成日： 平成25年 1月 4日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24	一人ひとりの思いや意向を把握す様努めているが、本人本位が十分できているとはいえない。	個別ケアの充実	訴えには傾聴し、記録し職員間で共有し対応していく。	12ヶ月
2	20	本人とともに支え合う家族との関係作りには個々の差があり満足とはいえない。	家族と入居者様の良好な関係作りへの支援	ホーム内での行事には事前の案内や本人様のお誕生日には来ていただくよう、協力を仰ぐ。	12ヶ月
3	2	地域行事等には参加しているが日常的な交流が十分とはいえない。	地域の方との関係を築く	ホームでの行事にも参加して頂ける様に、事前に案内し協力を仰ぐ。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。